

生成AI時代の生存戦略：効率化の先にある「人間ならではの価値」

陥りがちな「効率化」の罠

- AI活用が「目的化」してしまう
本来の目的である「泥題解決」を見失い、
ツールを使うこと自体が目的になる。
 - 「泥臭い経験」の機会損失
膨大な情報に触れる非効率な過程こそが、
専門家の直感や判断力を養う。
 - AIの生成物を
鵜呑みにする危険
正解と不正解を見分ける「真展閥」が
なければ、誤った結論に導かれる。
- 
- 
- 

人間ならではの価値を高める道

- 「問いを立て、磨く」
能力を鍛える
AIが答えを出せても、何を解決すべきか
という本質的な問いは人間が設定する。
 - 意図的に「非効率」を
取り入れる
手触り感を大切にし、思考の筋肉を
鍛えることで、AIを使いこなす土台
を作る。
- 
- 

- AIで基礎業務を効率化し、
「尖る」ことに時間を使う
専門家として、より高次元で創造的な
付加価値を提供する。
- 
- 